

青森縣知事の謝狀
及領收證

本社より去る十六日を以て發送したる第四回海嘯罹災
者救恤義捐金六十五圓九十錢に對し昨日青森縣知事
より左の謝狀及び領收證到達せり
當縣下海嘯罹災者救恤義捐金實社募集切替二枚於
送金ヲ托テモラレ候由ニテ今回金六拾五圓九拾錢寄贈
セラレ御厚配ノ段致深謝候右ハ夫々罹災者へ配與可
致候此段及御挨拶候也
明治二十九年十月二十四日 青森縣知事牧村眞
時事新報社御中

第二〇九一號
一金六拾五圓九拾錢
但本縣下海嘯罹災者救恤ノタメ御寄贈
右正ニ領收候也
明治二十九年十月二十二日 青森縣知事牧村眞
時事新報社御中

細功を積て大成せ
期す可し

我輩は前號の紙上に於て對韓政治の忽にす可らざる
次第を論じたり人或は云はん朝鮮の事は後日大に爲す
可きの時ある可し今は野を爲れ山を爲れ其成行に任し
て可なりと一應尤もなるが如くなれども凡そ何事にて
も成功は一朝に期す可らず平生細心の辛苦經營を積
漸く大成するものなり例へば身代を作るには朝夕家の
經濟に注意し一錢の儲を費さず一枚の紙も無益に
棄てず細々積て大を爲すものにして若しも何時か一度
は一攫千金の時來る可しとて浪費無用せば苟くは終
に貧乏を免れる可し又健康を致すにも平生の注意肝
要にして三度の食事を不消化の物を食はず朝夕運動を
務めて寐る可き時に寝ねおこし可き時に起さず日々の養生
を勤めて始めて壯健なるを得べしとす、非常運に運
動して非常に食ふも以て健康を得べからざるのみなら
ず却て身有害するも亦ある可し外交も亦斯くの如きも
のにして一事一物を奏するも必しも非ず、常態
として待む可らず猶ほ時に一攫千金の幸運なきに非
ずと雖も以て經濟の要義を爲す可らざるが如し左れば
平生の勉勵を大いにして日夜改々として怠らず尺寸
の侵害も必ず遠に回復を求めて威厳を立つると共に又
一事一物に親切を盡くして相手の親愛を得ざる可らず
斯くて今日一步を進め明日亦一步を進めて次第に進み
なれば是は我目的を達す可しと雖も若し急ぐが如きして
平生の不養生を一舉に償はんとせば種々の弊病を生じ
て是は固不幸に墮せし可し現に朝鮮の事は世論の喧し
きにも拘はらず當局者は一向顧みせず多年不養生を爲
したる爲め病氣は次第に重く最早や堪ふ可らざるに至
り一たび刀を揮て大手術を行はざるを得ざるに至る
り一時回復の色を呈したれども餘病百出にして右を治
むれば左を癒し前を治めれば後を起り國手も殆んど盡
せたるに至る可し、非ずや新治法を以て治するは
可し、非ずや新術を以て治するは可し、非ずや新術を以
て治するは可し、非ずや新術を以て治するは可し、非ずや
新術を以て治するは可し、非ずや新術を以て治するは可し、

抱して朝夕手を放す可くなく以て他日大に手術を行ふ
の地を作らざる可らず功を一時に貪らば或は驚る可く
看圖に手と鑑を弄らんば亦驚る可し危急の時と心得べき
なり

近海演習自從覽記
師團演習自從覽記

假設師團の本隊は上尾宿の東北に陣地を占領し左右に
各一個聯隊を出して防禦せしめ一個聯隊を砲兵陣地の
後に伏せて準備隊を爲し黎明前哨を撤し命令書にも在
る如く午前七時までは陣形全く成りて敵の來るを待
ち受け居たり抑も此砲列を敷きたる畑地は森林盡きて
將に山より稻田に出でんとする所にて東南方に森林あり
其左は一面の桑園にして以て我兵を伏すに宜しく
其右は漠たる稻田を隔てて遙かに向原の森林と相對す
最初は我輩から敵兵急々來り追らば桑麻の妨ぐる所
となりて充分接觸する能はざるも猶岩槻の北方に於
ける十七日の演習の如くならんと思ひ居たるが少し
く進んで森林に侵入り山の端に出れば向原より押寄
せ来る敵情一瞬の下に集りて敵とあれば射も通すまじ
き好地形なり北軍如何に大膽なりともモヤ正面より
押寄せ来る能はざる可しと敵の心を忖度し居るも亦
快なり

南軍の占領陣地
十月廿四日於上尾
特派員 卷 水生

南軍は早朝より陣形を整へて敵や來ると待ち受け居た
れど八時に至るも敵の影を見ず九時に至るも御客は
來らず既にして向原方面に出でたる捜索騎兵は歸り報
じて曰く向原より根金方向には敵兵居らずと南軍爲に
失望せり謂らく敵軍或は南軍を以て大官方面に退却せ
るものと爲し誤て同地方に出でたるにはあらざるか否
敵軍には小川純監を始め川村少將、殿崎藤三隊長等智勇
兼備の名將なり我軍の所在を詳にせざるものにあらず
必ずや我南軍の占領陣地容易に攻落す可きにあらざる
を知り或は遠く迂回して背面より攻め來るにはあらざ
るかなと我輩は多くの見物人と共に歌詠を下し居たる
も無理ならず敵の捜索騎兵は遠く上尾町に來りて南軍
の居らざるを見之と土人に問へば早朝大官方向に進
軍せりとの事と報告せしため川村前衛司令官を始め小川師團
以て其備報告せしため川村前衛司令官を始め小川師團
長も之を深く怪しみたれどもがために一時進軍を見
合せ何能く捜索せしむる等彼此時間に相違を生じたる
ならん敵情捜索の難きを以て其容易ならざるを知る可
きなり

師團演習の結了
茲に南軍の陣地を離れ、南軍の陣地を離れ、南軍の陣地を離れ、
位置に留めて各將校を集め小川純監及び川村少將より
北軍の運動に關する經歷及び演習ありて演習は凡て各
將校及び下士卒等能く命令通りに演習同様の運動を爲
し得るや否やを練習するものにして命令者は機に臨み
變に應じ能く適當の命令を發するものに意を用ひ受命
者は其機を誤らず其命令通りに戰形を變へて運動し待
るや否やに注意せざる可らず然るに兎角精戦を争ふ
の形跡あるは不都合なり假令へば進軍喇叭を閉ぐや隊
伍をも變へず戰線にあるまじき陣形を爲して前進する
が如き不都合甚だしきものなり又演習は短日子の間に
許多の練習を爲すものなれば或る可く練習を爲して
種々の困苦を嘗めざる可らず前夜南軍の來襲ありて聞
き急を報じて緊急集合地に集合喇叭を奏したるの中に
は命令書中にある緊急集合地の場所をも深く留意し置
かざるためか決定の時間後に後れたるものもありたるや
に思はれたりかゝる事は將校たるものも常に注意し置
く可き事なり云々右は小川純監の訓辭なれば音聲低
きに失して能く其尾を辨かにする能はず故に誤聞
なきを保する事は我輩の遺憾とする所なるが小川純
監の訓辭は練習の點にも注意せざる可く、練習の點に
たり、其訓辭を聞かざるは其書を聞かざる能はざる

第四十
一團の賓客は正
々々露西亞の
國。或る者は人民
んなるを願ひ奉り
命は動じて不可な
改革を欲して宗教
面目を更むべきを
「左様ですナ。」と
義な生活を送つて
ですナア。」
「オヤ貴様も、と
難儀な生活を送つ
「認めてますと、
「それなのに、果
民が實地の應政に
義をすれば、虚無
を今更の様に聖戒
「コレは、とスタ
を云ふと人が虚無
フンガ、と云ふ
く、或る者は人民
んなるを願ひ奉り
命は動じて不可な
改革を欲して宗教
面目を更むべきを
「左様ですナ。」と
義な生活を送つて
ですナア。」